

公表

## 児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート諫早アウル			
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日	～	令和6年12月31日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日	～	令和6年12月31日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成しているか。 ★子ども一人ひとりの特性や様子に合わせた専門的支援プログラムを立て支援を行っている	作業療法士・心理士によりアセスメント(感覚プロフィール等)を用いて一人一人にあった分析を行い、児童指導員等で統一された支援を実施しています。	子どもが今以上に楽しみながらチャレンジできるように支援内容の充実を行います。 全職員がストラテジーシート活用しより特性等にあった支援が行えるように取り組んでいきます。
2	○利用定員や子供の状況に対して職員の配置数は適切であるか。 ★作業療法士2名体制や様々な専門職(幼稚園教諭・音楽療法士・介護福祉士・児童福祉施設8年以上経験者等)の職員が在籍しております。(3年以上退職者なし)	多職種連携により児童に対して多方面からのアプローチが行え偏りのない支援が可能です。	少人数制により子どもと職員がペアとなって活動を行うなどの手厚い支援が行えます。
3	○職員の裾の向上を図るため、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 ★様々な研修や勉強会に参加しており職員全体の専門性が高いです。	内部研修では作業療法士を中心に年間スケジュールを立て毎月1～2回の勉強会を行い職員の知識に底上げを行っています。 外部研修や地域の研修にも参加して幅広く知識を深めています。	研修の充実を目指し、職員の受けやすい時間に勉強ができるように研修を配信方式にして行きます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 ★建物の古さや構造上の都合でバリアフリー化が難しい	建物自体は頑丈ですが、二階建てであったり段差があったりします。車いすや歩行補助器具等を使用している障害特性の場合は不向きです。	子供たちにわかりやすく構造化された環境設定を行っています。2階建ての構造を活かして個別支援室を設けたり、階段スペースでの活動を行ったり小集団での活動ができています。
2	○保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 ★支援時間の関係上地域の他の子どもとの関わりは難しい	今年度から児童発達支援を始めたため、年間行事の決まっている保育園や認定こども園さんのスケジュールを調整ができませんでした。	保育園や認定こども園との関係構築を進めています。公園活動等を利用し地域の他の子どもとも関わりが持てる機会を増やします。
3			

公表

## 放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート諫早アウル			
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～	令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17件	(回答者数)	10件
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～	令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 ★子ども一人ひとりの特性や様子に合わせた専門的支援プログラムを立て支援を行っている	作業療法士・心理士によりアセスメント(感覚プロファイル等)を用いて一人一人にあった分析を行い、児童指導員等で統一された支援を実施しています。	子どもが今以上に楽しみながらチャレンジできるように支援内容の充実を行います。 全職員がストラテジーシート活用しより特性等にあった支援が行えるように取り組んでいきます。
2	○利用定員や子供の状況に対して職員の配置数は適切であるか。 ★作業療法士2名体制や様々な専門職(幼稚園教諭・音楽療法士・介護福祉士・児童福祉施設8年以上経験者等)の職員が在籍しております。(3年以上退職者なし)	多職種連携により児童に対して多方面からのアプローチが行え偏りのない支援が可能です。手厚い支援によって居心地の良い放課後等デイサービス作りに取り組んでおります。	保護者や地域・学校教育関係者と共に子どもの居心地の良い場所作りを行えるように連携を強めていきます。
3	○職員の裾の向上を図るため、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 ★様々な研修や勉強会に参加しており職員全体の専門性が高いです。	内部研修では作業療法士を中心に年間スケジュールを立て毎月1～2回の勉強会を行い職員の知識に底上げを行っています。 外部研修や地域の研修にも参加して幅広く知識を深めています。	研修の充実を目指し、職員の受けやすい時間に勉強ができるように研修を配信方式にして行きます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 ★建物の古さや構造上の都合でバリアフリー化が難しい	建物自体は頑丈ですが、二階建てであったり段差があったりします。車いすや歩行補助器具等を使用している障害特性の場合は不向きです。	子供たちにわかりやすく構造化された環境設定を行っています。2階建ての構造を活かして個別支援室を設けたり、階段スペースでの活動を行ったり小集団での活動ができています。
2	○放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がある。 ★児童館はよく利用しているが、放課後児童クラブや地域の他の子どもと活動する機会はほぼない。	放課後児童クラブや地域の他の子どもとの接点がなく、関わりを持つチャンスがないためと思います。	児童館利用時はイベントにも参加し多くの子供たちとの関わる機会を増やしていきます。また、公園利用時も同様に地域の子ども達との関わりを持つチャンスを増やしていきます。
3			

公表

児童発達支援 事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハート課早アウル		公表日		令和7年2月15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			建物の構造の古さや2階建ての為、車いす等には向かずバリアフリーとは言えない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		空気清浄機（プラスマクラスター等）を2台稼働している。加湿や空調の設備も整えている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		プレイルームのほかに、大・小の個室や学習時にはパーテーション等を使用して工夫している。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		年に1回面談を行っている	評価はまだわからない	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4			そのようなことが行われているのかわからない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・専門研修を行っている ・内部外部研修を充実させている		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		今年度から感覚プロファイルSPを導入した		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		日々のミーティングで対応を統一できるように努めている		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		感覚プロファイルSPを利用している		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		OTミーティングを毎月行っている		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援後に振り返りを行っている		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6				
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6				
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報提供を行っている		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		6		(移行者がいない為)	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)				県立こども医療センターの研修をうけている	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			月に1回は対面にて様子等をお伝えしている		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6				次年度は実施したい	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6				
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		毎月行っている		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2			今年度より児童発達支援が始まったためまだ設けていない。次年度より実施予定
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6				

非常時等の対応	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギー対応いたしますが、ご家庭でご用意していただくこともある
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	日々のミーティングでヒヤリハットをあげ原因や予防策を考え周知している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート課早アウル		公表日		令和7年2月15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		1度に大人数にならないように別室や外活動をスタッフが意識している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			建物の構造の古さや2階建ての為、車いす等には向かずバリアフリーとは言えない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		空気清浄機（プラスマクラスター等）を2台稼働している。加温や空調の設備も整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		定期的なカンファレンスやミーティングで振り返りを行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価は毎年行っている。そのほか相談等は随時受けている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		そのようなことを行っているか知らない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・専門研修を行っている ・内部外部研修を充実させている	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		今年度から感覚プロファイルSPを導入した	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		日々のミーティングで対応を統一できるように努めている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		フォーマルアセスメントとして感覚プロファイルSPを使用している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		OTミーティングを毎月行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援後に振り返りを行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		県立こども医療センターの研修を受講している	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4	児童発達支援の時間と重なりなかなか参加できない	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時などに様子を伝え情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		次年度は取り組みたい
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		担当者会議や面談で得られた情報を計画に落とし込んでいる。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会は令和7年1月に実施	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			

非常時等の対応	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	2		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6				
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				